

緑化工事用メドウフェスク 「SWレバンシュ」のご紹介

1. はじめに

緑化工事用に使用される草種として、日本ではトールフェスク、クリーピングレッドフェスク、ケンタッキーブルーグラス、ハードフェスクが主に使用されてきています。これらに加えて新たな草種・品種として、メドウフェスク「SWレバンシュ」についてご紹介いたします。

2. メドウフェスクとは

メドウフェスクは、高寒冷地などで利用される寒地型の多年性イネ科牧草のひとつです。形態的にはトールフェスクに似ていますが、トールフェスクが葉耳の縁に短毛があるのに比べ、メドウフェスクには短毛が無いことで、容易に区別できます。さらに葉が粗剛なトールフェスクと比較して、メドウフェスクは葉が柔らかいことでも区別は可能です。

メドウフェスクの種子の好適条件下での発芽日数は概ね5～10日程度です。トールフェスクが同5～

10日でほぼ同等、ハードフェスクを含むファインフェスク類が8～12日、ケンタッキーブルーグラスが10～20日と比較すると発芽は比較的早く、早期緑化にも優れるといえます。また初期生育は良好で、トールフェスクより早いです。

3. 緑化工事用メドウフェスク「SWレバンシュ」

「SWレバンシュ」は、海外で流通しているメドウフェスク品種の中から、北海道夕張郡長沼町および千葉県千葉市において比較試験を行い、メドウフェスクの中でも特に草丈が低い緑化工事用の品種として適したものを選抜しています。

草丈は緑化工事用トールフェスクと比較して明らかに低く、牧草用メドウフェスクと比較してもシーズンを通して低いものとなっています。矮性トールフェスクと比較すると、春から初夏の草丈はやや高いですが、出穂時に刈捨てたのちの再生草では同程度になります（図1および写真1～4）。

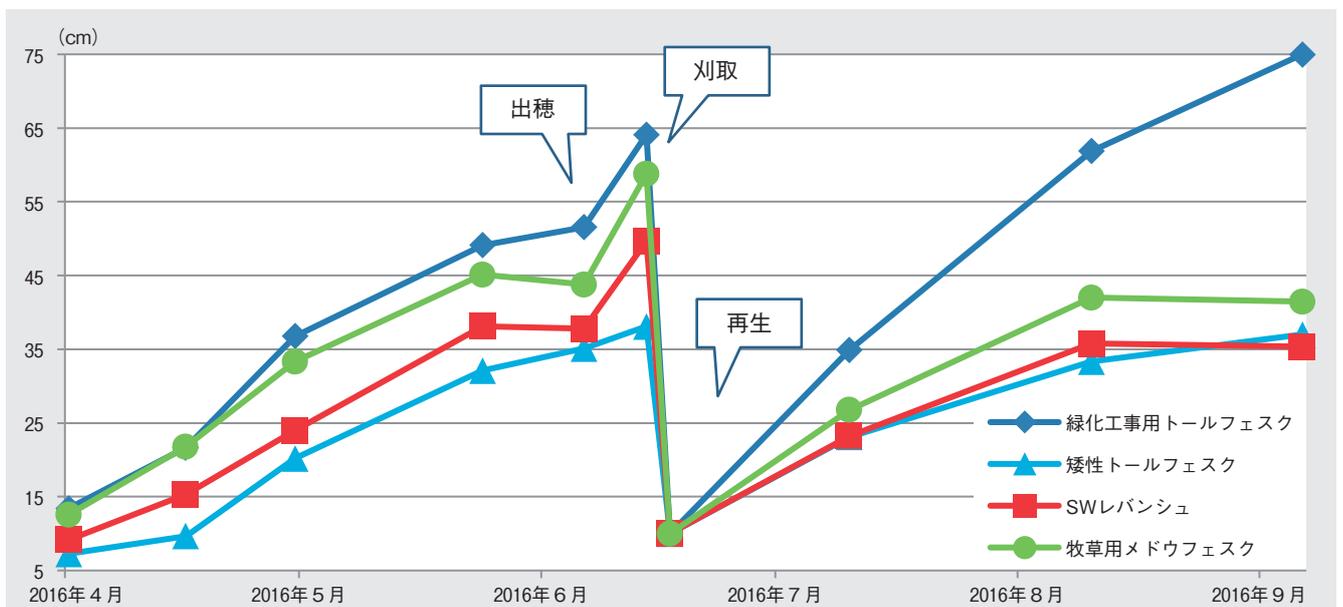


図1 草丈の推移 (弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町、2015年播種、2年目)



写真1 播種1年目の生育比較 (2018年11月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町)
左: SWレバンシュ、右: 牧草用メドウフェスク



写真2 播種2年目の生育比較 (2019年5月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町)
左: SWレバンシュ、右: 牧草用メドウフェスク



写真3 播種2年目の生育比較 (2019年6月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町、出穂揃いの状況)
左: SWレバンシュ、右: 牧草用メドウフェスク



写真4 播種2年目の生育比較 (2019年9月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町、刈捨て後の再生状況)
左: SWレバンシュ、右: 牧草用メドウフェスク

発芽・初期生育については緑化工事用トールフェスクおよび矮性トールフェスクと比較して良好で、牧草用メドウフェスクと同程度に良好です(図2)。

葉色は極淡く、濃緑色を呈する矮性トールフェスクおよび比較的淡緑色の緑化工事用トールフェスクと比較しても明らかに淡い緑色を呈し、牧草用メドウフェスクとほぼ同程度になります(図3)。

緑化工事に使用される場合、刈草の量は少ないほうが産廃処理を鑑みると好都合ですが、「SWレバンシュ」の出穂期の刈草重量は、緑化工事用トールフェスク、牧草用メドウフェスクと比較して少なく、矮性トールフェスクと同程度になります(図4)。

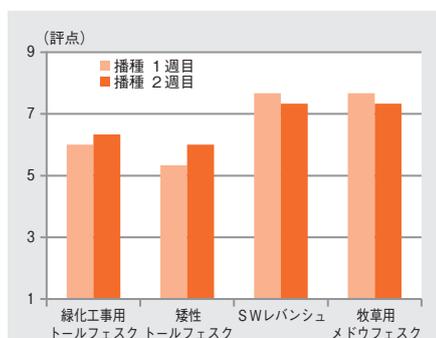


図2 発芽・初期生育の比較 (弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町、2015年播種当年)
目視による評点調査 (9:極良好)

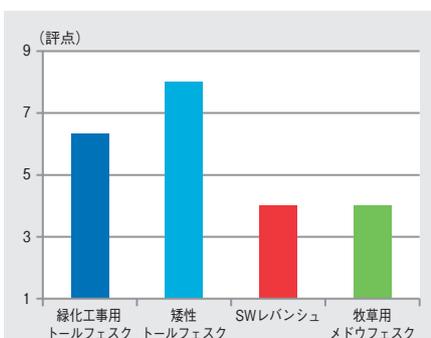


図3 葉色の比較 (弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町、2015年播種、2年目)
目視による評点調査 (9:極濃緑色)

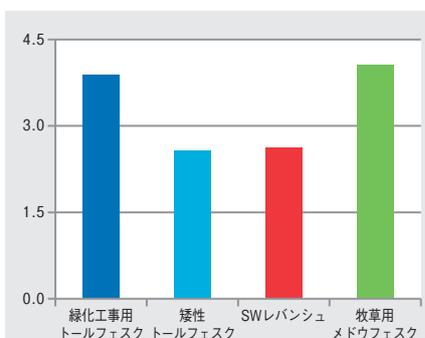


図4 出穂期の刈草重量 (kg/m²) の比較 (弊社千葉研究農場、千葉市稲毛区、2016年播種、2年目)

実際にメドウフェスクを緑化工事で使用する場合、北海道においてはクリーピングレッドフェスク、ケンタッキーブルーグラスなどと混播して、トールフェスクの一部または全部を置換えて使用されています（写真5）。

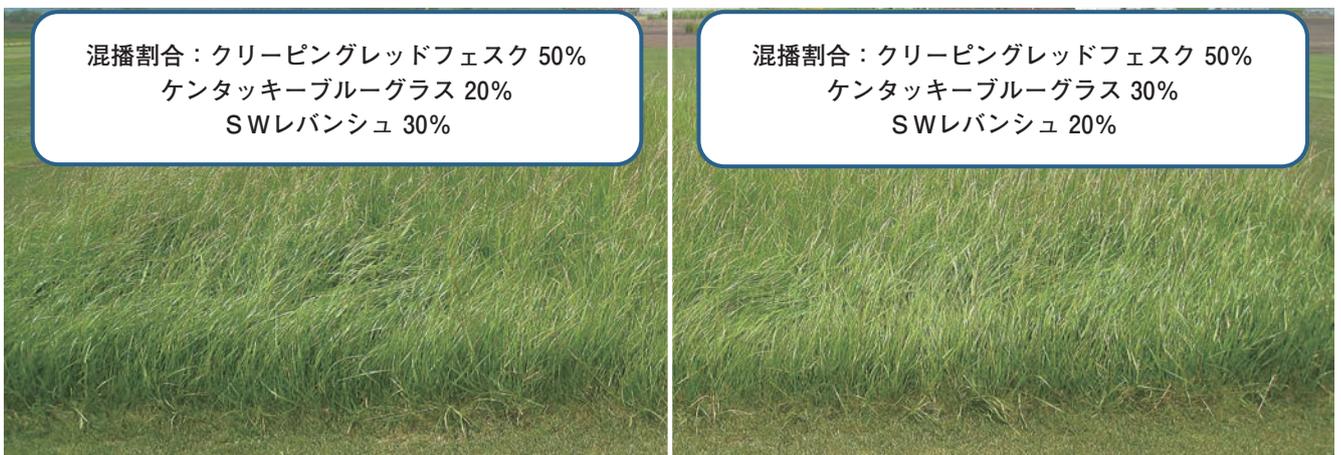
またメドウフェスク「SWレバンシュ」の地下部（根）の生育は、牧草用メドウフェスク、矮性トールフェスク、芝用トールフェスク、緑化工事用トールフェスクと比べても大きな差異はありません（写真6）。

注：これらに示したメドウフェスク「SWレバンシュ」の特性は、同じ栽培条件下で比較したものです。実際の栽培地における肥料分や水分および気温や日照などの天候状況等により変わって見えることがあります。

4. おわりに

メドウフェスク「SWレバンシュ」の越冬性は良好ですが、夏場の気温が高い地域での越夏性に未解明な部分が残ります。このため北海道を含めた比較的冷涼な地域においては緑化工事用として適しているといえますが、都府県でもとくに温暖な地域においては越夏性が不明なため、緑化工事に使用できる地域区分がはっきりしていません。この辺りについては今後の解明が待たれます。

こうした問題は残りますが、北海道を含む冷涼な地域における緑化工事でトールフェスク、ハードフェスクに次ぐ草種・品種として、緑化工事用メドウフェスク「SWレバンシュ」の使用も検討されてははいかがでしょうか。



混播割合：クリーピングレッドフェスク 50%
ケンタッキーブルーグラス 20%
SWレバンシュ 30%

混播割合：クリーピングレッドフェスク 50%
ケンタッキーブルーグラス 30%
SWレバンシュ 20%

写真5 混播で播種3年目の生育状況（2018年6月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町）



牧草用
メドウフェスク

SWレバンシュ

矮性
トールフェスク

緑化工事用
トールフェスク

芝用
トールフェスク

写真6 播種3年目の地下部の生育状況（2015年6月撮影、弊社北海道研究農場、夕張郡長沼町）